

「紅葉を訪ねて： 奥日光」

奥日光・戦場ヶ原散策報告（平成 30 年 10 月 5 日～6 日）

2006 年にビスターリの皆さんと一緒に、紅・黄葉の戦場ヶ原へ出かけたが、再度奥日光の紅葉を見てみたいとなり、何人かの方のご賛同を得て計画を立てた。この時期の奥日光は観光客が多くて、道路が渋滞するので、これを避けるために平日に計画したのだが、これが裏目に出て参加する方が結局いなくなってしまった。まあ兎に角“言いだしっぺは最後まで面倒を見る”とばかりに、一人で出かけることにした。宿は中禅寺湖畔より、湯元温泉の方が取りやすく又翌日の行動も楽だろうと考えた。三浦さんが偶々奥日光の「奥日光高原ホテル」に顔が効くと言われたので、厚かましくお願いすることにした（どうも、宿はいつも三浦さんをお願いしているみたい）。10 月 5 日は、「奥日光高原ホテル」には小中学生の団体で満員とか。また他の「国民休暇村」、「おおり山荘」などの宿も小中学生で一杯と、結局「民宿 若葉荘」を取っていただいた。また浅草から東武特急を利用するのだが、特急券の予約は予約日含めて 7 日以内に払い込み、受取らなければならないので要注意だ。

気象情報を見ていても、“曇り一時雨”、“曇り”とあまり芳しくない。どしゃぶりなら温泉に入って帰ってくればよい、と考えてはいたが、当日朝はやはり小雨、仕方がない。大きなリュックを背負って満員（超満員ではないが）の通勤電車に乗るのは気が引けるが。

9 時 00 分、東武浅草駅発の「REVATY けごん 11 号」に乗車する。4 月の尾瀬の時にはがらがらだったけど、今度は観光シーズンで満席に近い乗車率だ。お金が回るのは良いことだ。越谷辺りから雨があがってきて、空も明るくなり期待が持てそうだったが。窓からの景色は芙蓉、コスモス、尾花ていどだが、色づいた柿の実が目に入る。田圃は既に刈入れが終わった田と、黄色の稲穂が頭を垂れている田がある。“柿と田んぼ”は日本の原風景だ。

東武日光駅を降りると、駅前のバス停には「世界遺産」を廻るバスの専用ターミナルがあり、日本人、外国人などの多くの乗客が列を作っていた。奥日光行きのバスは定刻 11 時 10 分に出発。満席で立つ人もいる。しかし途中の東照宮、輪王寺などで降りてゆき、市街を抜けると立つ人は居なくなった。この辺はようやく紅葉が始まったところで、少し黄色、赤色の葉がある。30 分ほどで「馬返し」（海拔約 900m）に着き、「いろは坂」（新道、上り専用）の入口になる。カーブの所々に標識があり、「い」（No.1）、「ろ」、「は」、「ね」（No.20）を示している。11 時 50 分に「明智平」（海拔 1250m）に到着、12 時 00 分「中禅寺湖温泉」到着した。小雨だがはっきり雨になってきた。残念。

12 時 30 分「光徳入口」下車。丁度貸切りバスから降りてきた小学生約 60 人と会う。彼等も戦場ヶ原を歩くので先に行かせ、霧雨のような雨だがゴアテックス上下を着てゆっくりスタートする。

30 分ほどで「小田代橋」の分岐に出る。ここから湯川沿いに「湯ノ湖」へ向かう予定だったが、“道路が決壊しているために通行止め”の大きな横断板が道を塞いでいた。決壊の程度が分からないので、ここから引き返して、国道 120 号線を歩くことにした。もう雨は上がっていたが、蒸し暑い。「光徳入口」へ戻る途中でも 200 人位の小学生グループとすれ違った。

13時40分に「光徳入口」へ戻り、国道120号線を自動車に追いかけられながら、ゆるい坂道を登る。30分で「湯滝」の下に着いた。「湯滝」は落差70mあるとか。最近の台風と多雨で水量が多くて、なかなか見応えのある眺めだった。小形のドローンを飛ばして上空から瀧を撮影している人がいた。さあ、目の前の急な階段に挑戦する。息が切れるのでゆっくりゆっくり登る。それでも20分位で登り切った。

「湯ノ湖」は海拔約1480mで、見事な紅葉・黄葉を見ることができた。ドウダンツツジ、サクラ、モミジ・カエデ、ナナカマド、ミズナラ、シラカバ、ブナ などなど。

「湯ノ湖」畔の東側の道を回って15時15分に湯元温泉に着いた。しばらく湖畔の紅葉を楽しみ、15時半に「温泉神社」そばの「民宿 若葉荘」に到着した。「若葉荘」は古い建物で、確かに民宿だ。しかし、温泉があり、夕・朝食は品数もあり、十分満足できる内容であった。しかも¥6,650円は魅力的且つ良心的だ。周りの大きな旅館、ホテルからは、小中学生のかん高い声が響いてくる。紅葉の一番良い時期を選んだ先生はえらい！

昨晚、寝る頃に降っていた雨は既に上がり、綺麗な上弦の月が見える。5時半に宿から散歩に出る。玄関前に下っていた寒暖計は13℃を示しており、考えていたより寒くなかった。雲一つない快晴である。湖岸に行ってみると多くの人が散歩にきている。街中の案内図を見ると「湯の平湿原」があるのでそちらに向かう。周りの宿から大勢の小中学生が出てきて、「日光温泉寺」の方に行くので付いて行くことにした。彼等はお寺には見向きもしないで、参道から右に折れて「湯の平湿原」へ曲がって行った。湿原中央には折れ曲がった木道があり、向う端の湯気の出ている所に行く。そこは湯元温泉の“湯元”なのだ。いくつもの源泉小屋が建っており、硫化水素の湯気がもうもう出ている。足元の小さな流れには、硫黄の白い結晶が析出している。若い女の先生がかがんでお湯に銅銭を浸していた。そんなに簡単には緑青はできないだろうに。更に陸続と小中学生がやってくる。皆、学校の教育の一貫として勉強しているのだろう。

宿に戻り朝食を摂って、8時に出発する。生徒達を乗せたバスは、続々と国道120号線を「金精峠」へ向かって行った、多分丸沼・菅沼を通して帰るのだろう。こちらは8時27分発「湖畔前」からバスで「光徳入口」へ向かう。8時40分、ここからまた昨日の道を「小田代橋」へ行く。土の道は昨日よりひどく水溜り、ぬかるんでいる。木道手前で、鹿除けフェンスの向こう側に高年のご夫婦がおり、“フェンスを抜けられない”とどうろうろしていた。国道120号線から間違えた所を下りてきてしまったらしい。戻るのが一番早いのにと思ったが、少し遠く離れているので、声をかけられなかった。

「戦場ヶ原」の北端にある木道を歩く、昨日と異なり周りの景色特に紅葉が青空に映えて綺麗だ。この辺りの「戦場ヶ原」は背の高い茶色の葎に被われているので、“草紅葉”とは少し異なるようだ。「三本松」とか「自然研究路」の方に行かねばならないのだろうか。快晴のもと「男体山」、「大真名子山」、「小真名子山」がすっきり見える。「小田代橋」を渡って「泉門池」で一息入れる。ここからも「男体山」の眺めは素晴らしい。雑木林の中で地元日光市のおばさんが茸を採っていた。息子は写真に夢中なので、自分はキノコ採りだという。今年は雨が多いので豊作だろう。

9時40分、鹿除けフェンスから中に入って、「小田代ヶ原」へ出る。前回同様西側の道を取るが、今は立派な木道になっていて歩き易い。10時10分、「小田代ヶ原展望台」へ着く。暫時休憩。ここからは「小田代歩道」というミズナラなどの林の中の道を歩くが、木が高く日が差し込んでいるので、明るく気持ちよい道である。紅葉・黄葉も真っ盛りだ。唐松の木もあるが、こちらの黄葉はもう少し先のような。台風のために折れた枝が多い。途中、“なんとか山の会”の旗を持ち8班まで班分けした約80名の中高年男女グループとすれ違った。人数は多いが道がなだらかなので、皆同じペースで歩けるのだろうな。

るんるんの道も11時20分に「しゃくなげ橋」に着いて終わった。12分ほどで「龍頭の瀧」の上の「龍頭の橋」に着いた。ここはもう“下界”で観光客だらけだ。昼近くなり「男体山」の頂上には雲が掛ってしまった。12時少し前に「龍頭の茶屋」に着いて、今回の散策は終りとなった。

1時間ほど休憩して、12時56分のバスで日光へ下る。幸い座れたが、「中禅寺温泉」からは超満員、ぎっしり立つ人もでた。「いろは坂」(上、海拔1286m)は「な」(No.21)から始まり、「ん」(No.48)まで続いた。少し渋滞したがそれほどひどくはなかった。13時35分に「馬返し」に着いて「いろは坂」は終わった。10分程遅れて14時に東武日光駅に帰着した。幸いあまり待たずに14時23分「特急げごん32号」の座席が取れて、その後は順調に帰ることができた。

今回またもや“ひとり旅”になったが、奥日光、特に湯元の紅葉を満喫することができた。台風の後遺症で、「小田代橋」から「湯滝」までの“美しい流れ”を楽しむことができなかったが、まあ天災には勝てないと思えるべきでしょう。今回は「小田代ヶ原の紅葉・黄葉」を見に来たということになるようだ。それにしても行き会ったのは8割がた小中学生だった。彼等も日本経済の活性化に大いに貢献しているわけだ。

以上 陽田

奥日光・戦場ヶ原散策写真（一部）⇒ 2018 ギャラリーへ

